

平成30年度 第1回 社会教育委員の会議 摘録

- 【日 時】 平成30年7月17日（火）午後2時00分～
- 【場 所】 生涯学習支援センター 1階 多目的室
- 【出席委員】 堺(裕)委員、上田委員、西田委員、鶴岡委員、原田委員、堺(婦)委員、野田委員、松尾委員、江崎(君)委員、江崎(美)委員、後藤委員、藤本委員、岡本委員、柿川委員
- 【行政関係者】 中村市民協働部長、中嶋市民協働部調整監、徳川地域コミュニティ推進課長、大倉野生涯学習課長、境生涯学習課青少年担当課長、平田人権・同和教育課主幹、徳永スポーツ推進室長、川地世界遺産・文化財室長、西田地域コミュニティ推進課社会教育主事、上田同課社会教育担当職員

◆委嘱状交付

今回は、委員の一斉改選の年に当たり、全委員に委嘱状を交付。
任期は、7月1日から平成32年6月30日までの2年間。

◆あいさつ

中村市民協働部長

◆自己紹介

各社会教育委員及び行政関係職員

◆社会教育委員の会議について

配布資料『第1回社会教育委員の会議』P3～12に基づき事務局が説明。

◆議長及び副議長の選出

議長：堺(裕)委員 副議長：江崎(美)委員

◆福岡県社会教育委員連絡協議会評議員について

堺(裕)委員・・・福岡県社会教育委員連絡協議会評議員は2年間の任期で、昨年度から引き続き「堺(裕)委員」に就任していただく。

◆議 題

1 平成29年度社会教育委員の会議等実績報告及び平成30年度事業計画（案）について

配布資料『第1回社会教育委員の会議』P13～16に基づき、事務局が説明。下記のとおり説明を付け加えた。 ⇒ 一同承認

2 「平成30年度社会教育・生涯学習事業計画」及び「平成30年度社会教育・生涯学習機関等事業計画」について

配布資料『大牟田市教育の振興に関する大綱』に基づき、位置づけ、基本目標、体系図、重点事業などを中嶋調整監より説明。その後、配布資料『平成30年度社会教育事業計画』及び『平成30年度社会教育機関等事業計画』に基づき、重点事業及び新規事業等を中心に各課長より説明。以下の意見・質問が出た。⇒ 一同承認

委員	社会教育・生涯学習事業計画のNo.31「子ども未来デッサン事業」は興味深い。子どもの将来の目標につながる研修会のように考えているが、講師は決まっているのか。決まっていたら出来る範囲で教えて欲しい。
行政関係者	具体的に講師が決まっているものもある。今年度の職業は、英会話講師・獣医師・DTP デザイナー(パソコンでデザインを作成している方)を考えており、獣医師は動物園の先生をお願いをしている。
議長	この講座は何回くらい実施されるのか。
行政関係者	各職業につき1回で実施する。
委員	多様な講師を考えていることが分かった。お願いとして、子どもに年齢が近い方も講師として呼んでほしい。年齢が近いほうが子供たちの関心もより高まると思う。
議長	前回の会議で、未来デッサンと企業出前講座を組み合わせるといった意見も出ていたが、どうか。
行政関係者	昨年度は、生涯学習課が企業出前講座も子ども未来デッサン事業も実施していたので、ご意見を踏まえて検討したが、今年度より、子ども未来デッサン事業は社会教育施設である公民館で実施するため、より地元の人と密着した事業の組み立てや地元の方に講師をしてもらうという狙いもあったので、昨年度とは色合いが変わる可能性ある。そのため、今回は企業出前講座とは切り離れた形で考えている。
議長	社会教育・生涯学習事業計画のNo.42「子どもの体力アップスポーツ事業」について、昨今子どもの体力が低下していることから、このような事業が継続されていると考えるが、何か成果があれば教えてほしい。
行政関係者	数年継続して実施している事業で、昨年度は親子60組120名が参加した。講師には、子どもに対するスポーツの大切さについて講義をもらった。子どもは運動が好きで子どもだけではないので、いかに運動に興味・関心を持ってもらえるかを上手く伝えてもらった。事業から6ヵ月後に追跡調査としてアンケートを行ったところ、「以前より体を動かすようになった」と回答があったことから、事業の成果があったと考えている。
議長	No.17 から 22 までに「子ども会支援事業」について、全市的に子ども会が縮小している印象があるが、拡大していく取組みがあれば教えてほしい。

行政関係者	子ども会の数と加入率は年々減少している。それについての取組みとしては、天の原校区は、天の原校区子ども会として校区の子ども全員が加入する形をとっている。他の校区に先駆的な例として紹介しており、今年度からは明治校区も校区の子どもを対象とした子ども会を作った。
議長	大きくしたほうが参加しやすいのか。
行政関係者	公民館ごとに子ども会があるが、加入する子どもが少なくて、公民館がなくなるというパターンが多い。活動はしたいが、子ども会としての活動が難しいという地域もあった。
委員	天の原校区は、民児協の会長が市子連の会長もしていることから、その関係で校区子ども会の立ち上げにつながったと考える。公民館に加入しているかどうかで、子どもを区別したくないと、天の原校区の子どもたち全員加入した。保険料はまち協で負担している。事業は各地域・個別の事業もあれば、校区全体の事業もしている。活動する際に、会長に実施する事業の連絡を行えば、保険の対象となる。事業を実施しない・出来ない地域もあるが、公民館に加入しているかどうかによる加入への制限がない。
議長	インリーダー研修の参加者は校区の偏りはあるか。
行政関係者	参加は全市的で、偏りはない。
委員	通学合宿は随分前から行われており、すごくいいなと思っている。地域の中で育っていくことや、6年生まで参加した子どもが中学生になったときアシスタント的に通学合宿に参加することで、地域の子どものリーダー的な存在になる。 もう一つは子ども未来デッサン事業については、地域の働いている人から学ぶことは大切である。子どもは地域の中で育っていくと思っているので、通学合宿はすごく大事。育てていく人は大変だが、先日上内小学校の通学合宿を見学させていただいたときには、子どもだけでなく参加している皆さんが楽しそうだった。卒業した子どもたちをどのように参加してもらおうかが大事だと考えている。そのような関わりが出来ているところがどれくらいあるか、調べてもらいたい。
委員	読書に関しての事業をしたからといって、子供たちが読書するようになるわけではない。例えば学校の司書を従事させるとか、子どもが身近に感じられる専門的な人が近くにいるとか、学校の図書室が充実している等が大切だと考える。学校図書と図書館の連携が出来ないかなと思っている。
行政関係者	図書館と学校図書室との連携というのは非常に大事であり、これからの大きな課題だと考えている。「うちどく」の推進という取組を昨年度より行っており、倉永小学校をモデル校として実施している。各年齢にあった図書館の本をコンテナに詰め

	込んで、それぞれの学年に届けるという取組みで、今年度も引き続き実施する。子ども・保護者へのアンケートでは、子どもからは「家族と一緒に本を読んで色々な感想・意見があって面白かった」、保護者からは「下の子に対して読み聞かせをしてくれた」、「本を通して色々な話ができて新鮮だった」という声があった。きっかけがあれば、子どもは読書に親しむと思うので、「うちどく」は読書や家庭の中のコミュニケーションのきっかけづくりになると思う。
委員	No.133 について、出前講座ではなく独自の事業か。
行政関係者	人権関係の講師専用の非常勤職員が在籍している。地域や事業所単位で会員や職員に人権関係の啓発研修への講師派遣依頼があれば職員を派遣している。昨年度は38 件の派遣依頼があり、のべ 1431 名の方に参加をしていただいた。
委員	派遣の時間は制限があるのか。例えば昼間だけ等。
行政関係者	希望の日時をお伝えいただければ、夜でも調整可能である。研修時間も希望に合わせてることが可能である。

◆報 告

大牟田市社会教育・生涯学習基礎調査研究について

配布資料『大牟田市社会教育・生涯学習基礎調査研究実施計画書』に基づき、大倉野生涯学習課課長より説明。以下の意見・質問が出た。

議長	2(2)について、社会教育についてだけなのか。例えば学校教育について新しい指導要領の中で子供たちが生涯にわたり学習していく意欲を育てるとある。この点も含めて仕組的なことを考えていただきたい。
行政関係者	学びの輪、学びの循環についてですが、社会教育・生涯学習で学んだことを正しく活かすことの出来るまちづくりを大きな目標と掲げているので、今回の調査ではその点を大きな視点としている。子どもの学びや社会人の学びなおしについても、広い視野を持って調査研究にあたっていきたい。
議長	学校教育課も実行委員会に入っているようですので、ぜひ連携をよろしく願いしたい。

◆その他

・委員の研修案内

今後の研修については、随時案内を出していく。

⇒ 第2回会議 10月上旬 予定